



会津医療センターから こんにちは！



【26】

総合内科学講座
教授 山中 克郎

『成長のため学び続ける』

英国の詩人 ロバート・ブラウニング（1812-1889）の詩に次の言葉があります。「共に老いてゆこう。いちばんいい時はこれからだ。人生の最後、そのために最初が作られたのだ」

中高年になると細かい字を読むのが辛くなります。勉強してもなかなか記憶に残りません。しかし、若手医師に習得した技術と経験を伝えながら、患者さんを幸せにするため、自分自身ももっと成長したいと思います。だから私たちベテラン医師は医学を学び続けています。

医師が行っている診療の流れをお示します。

①バイタルサイン：バイタルサインとは体温、心拍数、血圧、呼吸回数のことです。ナースが診察前に測定し、問診票に記入してくれます。心拍数>収縮期血圧（上の血圧）となる状態を「バイタルの逆転」と呼んでいます。これはショック状態になる可能性があることを意味します。

②問診：主訴（病院に来た理由）、現病歴（調子が悪くなってから、今までに起きた体の不調）、既往歴（過去にかかった病気）、薬剤歴（現在飲んでいる薬）、アレルギーについてお聞きします。この問診は非常に大切です。診断の80%はこの問診がヒントになると言われます。

③診察：聴診器で心臓の音や呼吸音に異常がないか、腹部に腫瘍ができていないか細かく観察します。ベテラン医が勉強に対するモチベーションを維持するには、刺激を与えてくれる若手医師と交流することが重要です。若手医師は多くの医師との出会いや経験から自分にあった診療スタイルを確立していきます。

「病院の担当医はすぐ転勤する」との声も聞きますが、決してこの地域を見捨てるわけではありません。さらに大きく自分を成長させ帰って来る医師もたくさんいます。医師の成長を温かく見守っていただければ嬉しいです。

ブラウニングは名言を残しています。「成長せずに、どうしてこの世に存在する意味があるだろうか」